

# 第50回鹿児島県高等学校空手道競技大会 (全国・九州大会予選) 要項

- 1 主催 鹿児島県高等学校体育連盟・鹿児島県教育委員会
- 2 後援 公益財団法人鹿児島県スポーツ協会
- 3 主管 鹿児島県高等学校体育連盟空手道競技専門部
- 4 期日 令和8年6月2日(火)・3日(水) 8時45分集合 9時15分開始
- 5 会場 鹿児島県総合体育センター体育館
- 6 競技規則 公益財団法人全日本空手道連盟競技規定並びに審判規定  
全国高等学校体育連盟空手道専門部規定
- 7 競技方法 第1日目 個人形(第1R, 第2R, 決勝トーナメント), 団体組手  
第2日目 個人組手

## 8 引率・監督

- (1) 引率責任者は、団体の場合は校長の認める当該校の職員とする。個人の場合は校長の認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第78条の2に示された者)も可とする。ただし、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、県高体連会長に事前に届けること。

【参考】引率が認められる職員とは、校長・教頭・教諭・助教諭・養護教諭・養護助教諭・講師(常勤)・部活動指導員・実習助手である。ただし、実習助手については、以下の条件を全て満たし、校長が承認した者である。

- 1 正規職員であること
- 2 当該部活動の指導を常時行っていること
- 3 教員免許状の普通免許状を有していること又は免許法認定講習等で生徒指導に関する単位を1単位以上取得し、かつ6年以上の勤務経験があること

- (2) 監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険(スポーツ安全保険等)に必ず加入することを条件とする。但し、(2)について全国高等学校体育連盟各競技専門部における別途規定が定められている場合は、その規定に従うことを原則とする。

## 9 参加資格

- (1) 本年度県高体連加盟校在籍学生であること。但し、休学中、留学中の生徒は除く。
- (2) 年齢は平成19(2007)年4月2日以降に生まれた者とする。但し、出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。
- (3) チームの編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (4) 複数校合同チームの大会参加については、本連盟が別途定める「複数校合同チーム大会参加規程」に従う。
- (5) 転校・転籍後6か月未満の者は参加を認めない。(外国人留学生もこれに準ずる)ただし、一家転住等やむを得ない場合は県高体連会長の認可があればこの限りでない。(大会出場許可申請書を提出)
- (6) 参加する選手は、あらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の参加申込書を必要とする。
- (7) その他の事項については、全国高校総体実行要項に準じる。
- (8) 参加資格の特例による学校(生徒)の参加については、鹿児島県高等学校総合体育大会開催基準要項の「参加資格の特例」並びに「大会参加資格の別途に定める規定」のとおりとする。
- (9) 外国人留学生の参加については、団体は正選手の過半数を超えない範囲で出場を認める。個人は参加制限しない。

## 10 参加制限

- (1) 団体戦
- (2) 個人戦

## 11 参加申込

参加申込みに際しては、「個人情報保護及び肖像権に関わる取扱いについて」を承諾した上で、申し込むものとする。

- (1) 申込締切日 令和8年5月11日(月)15:00までに必着とする。
- (2) 申込方法 当該学校長の責任において、所定の参加申込書により1部作成し、作成した参加申込書をPDF化し、PDF化したファイルを指定のファイル送信システムにアップロードして申し込む。また、選手名簿のデータ(エクセルファイル)を下記アドレスに送信する。  
専門委員 高橋宏幸(加治木工業高校) [takahashi-hiroyuki@kago.ed.jp]
- (3) 申込先 県高等学校体育連盟事務局が指定するファイル送信システム
- (4) 参加申込書提出後に出場を辞退しなければならなくなった場合は、速やかに専門委員長に連絡をし、大会出場辞退届を県高体連事務局に提出する。

## 12 競技種目

団体組手, 個人組手, 個人形

## 13 採点方法

公益財団法人全日本空手道連盟競技規定, 及び全国高等学校体育連盟空手道競技申し合わせ事項に則って行う。

## 14 表彰

団体組手4位, 個人組手5位(ベスト8), 形4位まで表彰する。

## 15 監督会議

- (1) 日時 令和8年6月2日(火) 8時45分～
- (2) 会場 鹿児島県総合体育センター体育館

## 16 組合せ

5月15日(金)午前9時から加治木工業高校(予定)において専門部で組合せを行う。各チームの監督は組合せ会に出席してもよい。組み合わせ結果は県高体連事務局ホームページに掲載する。

## 17 組手競技

### (1) 団体組手について

- ① 男子5名(補欠2名), 女子5名(補欠2名)とする。
- ② 上位4チームで決勝リーグを行う。1回戦より決勝リーグまで「8ポイント差」とする。
- ③ 出場校が10校未満の場合はリンクトーナメント制をとり入れることもある。
- ④ 規定の5人に満たない場合でも過半数(3人)の選手で成立する。
- ⑤ 登録されたメンバーの中で、試合毎にオーダーの交替ができる。
- ⑥ 団体組手の出場人数が同じ場合、オーダー順は前から詰める。
- ⑦ 団体組手の出場人数が異なる場合、オーダー順は人数の多い学校が前から詰めて、人数の少ない学校が相手チームの人数内でオーダーを組むことができる。
- ⑧ 団体組手競技で一度負傷によって棄権した選手は、当日以後の団体組手競技には出場できないが、個人組手には出場できる。

### (2) 個人組手について

1校4名以内とし、補欠は認めない。

### (3) 安全具(高体連指定)の着用

女子: ニューメンフォー・拳サポーター・ボディプロテクター・シンガード・インステップガード  
の5点セット

男子: 女子の安全具にセーフティカップを加えた6点セット

### (4) 安全具の不備な選手は参加を認めない。

## 18 形 競 技

- (1) 大会で使用する形は全空連「競技形リスト」（2025年4月1日運用開始）から選ばなければならない。
- (2) 1校2名以内とし、補欠は認めない。全て得点制とし、第1・2Rは指定形（同一の形を可とする）、決勝トーナメント準決勝・決勝は第1・2Rで演武した形以外の得意形（同一の形を可とする）の中から選ぶ。  
※ 第1R・第2R：最高・最低を除いた合計点の大きい方が勝者  
決勝トーナメント：高得点を出した審判員の人数が多い方が勝者
- (3) 第1Rで同点があった場合は、再試合をせずに第2Rへ進出させる。第2Rの1位から4位以内で同点があった場合は、再試合（最高・最低を除いた合計点の大きい方が勝者）を行う。その際の形は、第2Rで演武しなかった得意形または指定形とする。なお、第1Rで演武した形を選んでよい。

## 19 そ の 他

- (1) 全国大会・九州大会の出場について
  - ① 全国高等学校総合体育大会：団体組手1位、個人組手2位、個人形2位まで。
  - ② 全九州高等学校体育大会：団体組手2位、個人組手5位(ベスト8)、個人形4位まで。  
※ 棄権に伴う繰上げ出場は認めない。
- (2) 競技者の道衣は純白とし、左胸に校名、左肩に県名を必ずつける。その際の校名、県名は黒、紺、スクールカラーとする。道着に入れる氏名は黒色のみとする。また、背中には全国高体連空手道専門部指定のゼッケン（年度更新）を縫い付けなければならない。  
※ ゼッケンに関する問合せ先：専門委員 山元大樹（鶴丸高校）※昨年度と変更
- (3) 決められた場所（胸の学校名、袖の県名、上着・下着の名前）以外に刺繍することは禁止とする。名前を入れる場合は、自分の姓（名字）またはフルネームが望ましい。
- (4) 上着は必ず脇に紐のあるものを着用する（胸紐は付けてはいけない）。袖の長さは手首までとし、前腕の中ほどより短くてはならない。上着の袖をまくり上げてはならない。ズボンの長さは、踝がかくれてはならない。少なくとも下肢の3分の2を覆うほどの長さとし、裾をまくり上げてはならない。また、空手道衣の袖の空き、ズボンの空きは8～20cmでなければならない。
- (5) 帯でウエストを締めたときの着の長さは、腰を覆うほどの長さとし、大腿部の4分の3までとする。運用としては、帯を締めた状態で真直ぐに下ろした時の着の長さが膝上10cmまでとする。
- (6) 申込書不備の学校、個人については申込みを受け付けない。
- (7) 選手の頭髪等の染毛、パーマ、極端な長髪は禁止する。（女子はヘアピン、リボンを禁止する。）
- (8) 健康管理
  - ① 競技中の傷害等の応急処置は主催者側で行うが、その後の責任は負わない。
  - ② 故障者については、監督の責任で出場を取り止めること。
  - ③ 参加者は健康保険証を持参すること。
- (9) 眼鏡での出場は認めない。ただし、コンタクトレンズ（ソフト）は認める。
- (10) 会場や観覧席を汚さないよう各校とも責任をもって処理すること。